

間後に再訪したが、キノコはすでに溶け去っており、残渣などから追加個体は得られなかった。6月の採集記録はあるが、本報告のように秋季の比較的昆虫が少なくなる時期に発生することや、来集するキノコの発生が短期間なことが得られにくい一因としてあげられる。滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課(2018)ではオオキノコムシ亜科の種数は47種であり、本報告により1種増え、48種となる。

末筆ながら、キノコに関し同定いただいた横山明子氏(みなくちこどもの森)、仲介の労をとられた川瀬直幹学芸員(みなくちこどもの森)に記してお礼申し上げる。

引用文献

- Chûjô, M., 1941. Descriptions of some new Erotylidae (Coleoptera) from the Japanese Empire. Kontyû, 15 (1) : 10–21, Figs. 1–11.
- 中條道夫, 1969. 日本動物誌 昆虫綱 Erotylidae (オオキノコムシ科). pp. 316, pls. 23. 学術書出版会, 東京.
- Chûjô, M., M. T. Chûjô, & C. E. Lee, 1993. Erotylidae from Korea (Insecta, Coleoptera). Esakia, (33) : 99–108.
- 本郷次雄・上田俊穂・伊沢正名, 1985. きのご図鑑. 223 pp. 保育社, 大阪.
- 木元達之助, 1996. 茨城県未記録の甲虫8科21種. 甲虫ニュース, (113) : 7–8.
- 清山好美, 1999. オオキノコムシ科の甲虫. 昆虫と自然, 34 (5) : 21–25.
- 松田一郎・成田伝蔵, 1986. きのごの見分け方. 254 pp. 学習研究社, 東京.
- 水野弘造・細田倖市, 2010. 韮崎市(山梨県)の甲虫. 地域甲虫自然史, (6) : 1–205.
- 中峯浩司, 2009. 霧島山高千穂峰で採集したコウチュウ類. 鹿児島県立博物館研究報告, (28) : 75–84.
- 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 2018. 滋賀県昆虫目録. URL http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/shigakon-cyyuu/h30_shigakonncyyuu.html (2020年1月19日閲覧)
- 森林総合研究所, 2008. 関東・中部地域で林地生産を目指す特用林産物(キノコ・山菜等41種)と被害事例. 農林水産省高度化事業 18021「関東・中部の中山間地域を活性化させる特用林産物の生産技術の開発」34 pp.

(山本雅則 521–1322 近江八幡市安土町宮津 1-57)

【短報】口永良部島からのヒゲブトシギゾウムシの記録

ヒゲブトシギゾウムシ *Curculio breviscapus* (Heller, 1927) は、日本産シギゾウムシ属内では特異な種で、森本(2011)でもヒゲブトシギゾウムシ群として独立の種群として扱われている。本種は、本州、伊豆諸島(御蔵島)、隠岐諸島(島後)、四国、九州、種子島、屋久島、台湾、中国に分布し、成虫は5～9月にクワ科のオオイタビ *Ficus pumila* から採集されている(藤本, 2011; 森本, 2011; 小島, 2015)。

筆者は、本種を4月に口永良部島で採集しているので、同島初記録として報告する。

10 ♂, 本村～田代, 19. IV. 2019; 10 ♂ 2 ♀, 本村～岩尾泊, 20. IV. 2019, すべて筆者採集。

本村～田代で得られた個体は、道沿の電信柱に絡みついたオオイタビから採集した。

本調査は一部、日本学術振興会科学研究費補助金(19K06790)の助成を受けて行われた。

引用文献

- 藤本博文, 2011. 採集難易度付き日本産シギゾウムシ族一覧表. 昆虫と自然, 46 (5) : 28–33.
- 小島弘昭, 2015. 伊豆諸島御蔵島産ゾウムシ上科甲虫目録. みくらしの科学, 4: 17–44.
- 森本 桂, 2011. 日本産シギゾウムシ類の概説. 昆虫と自然, 46 (5) : 4–15.

(小島弘昭 243–0034 厚木市船子 1737

東京農業大学農学部昆虫学研究室)

【短報】薩摩黒島からの水生甲虫5種の記録

薩摩黒島(以下、黒島と略)における昆虫相調査は、主として鹿児島県立博物館や鹿児島昆虫同好会により行われてきた(江平, 1985; 畑田, 1987, 1990; 金井ら, 2012)。しかし、それらの調査は陸域の昆虫を中心に行われており、水生昆虫の記録は少ない。コウチュウ目では、ゲンゴロウ科のチビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873) とリュウキュウセスジゲンゴロウ *Copelatus andamanicus* Régimbart, 1899 の2種のみが報告されるにとどまっていた(金井ら, 2012)。

筆者らは、2016年と2018年に黒島の昆虫相調査を行い、三島村ならびに黒島から新記録となる水生甲虫類5種(ゲンゴロウ科4種、ガムシ科1種)を確認したのでここに報告する。

本調査は三島村役場の調査許可を得て実施した。なお、本報告で使用した標本は東京農業大学昆虫学研究室にて保管する。また、本文中で採集者名は次のように略記する: 長野宏紀(HN); 嶋本習介(SS)。学名は Nilsson (2019) および Przewoźny (2019) に従った。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1. チャイロチビゲンゴロウ *Allodessus megacephalus* (Gschwendtner, 1931)

5 exs., 塩手鼻, 11. III. 2018, HN.

海に面した断崖の小規模な水たまりで得られた